

□■□ 令和2年度 いちのみや探究デー 地歴公民科研修 □■□

■ 日時：11月14日（土）

- ① 研究授業（13：20～14：05，於：1-2）
 - ・授業者：長原有紀先生（岡山一宮高校）
- ② 研究協議（14：20～15：30，於：地歴公民教室）

■ 研修のねらい

「探究の一宮」を合い言葉に、i コンピテンシーの5つの資質能力の向上と関連付け、探究型の授業を研究実践し、教員一人ひとりのスキル向上を図る。

■ 研修の概要

- ① 研究授業（13：20～14：05，於：1-2）

題材はナチス期のドイツで、世界恐慌の結果、ナチスが政権を獲得し、その後のナチスの諸政策に対して、どのような態度をとるか、ということでその都度グループワークを挟みながら、生徒の主体的な取り組みを促していた。話し合いをさせていた局面は以下の通りである。

（ア）恐慌後に失業者を減らしたが、その反面人権が制限されたとき

（イ）ユダヤ人を迫害した結果、ドイツ人に様々なメリットがもたらされたとき

このそれぞれの時にどのような態度をとるかを、バロメーターで示し、生徒が選択しやすいように工夫がなされていた。そして、どの時期であればナチスを止められたか、また、ナチスが政権を成立させたとしても、その後にどのような行動がとれるのか、について、実在の人物を取り上げながらまとめられていた。話のリズムが良く、生徒が高い集中力を保って授業に臨んでいる姿が特徴的だった。

- ② 研究協議（14：20～15：30，於：地歴公民教室）

研究協議については、以下の要領で行った。

（ア）4、5人のグループを編成する。

（イ）授業者である長原先生の授業のねらい等についてあらためて振り返っていただく。

（ウ）A3のコピー用紙を教師の活動で良かったところ、改善が必要なところ、生徒の活動で良かったところ、改善が必要なところで四つに区分し、それぞれのグループで付箋を貼りながら感想を述べあう。

それぞれのグループで活発な話し合いが行われ、有意義な研究協議となった。授業の進め方、生徒へのアプローチの仕方、グーグルクラスルームの活用可能性など、様々な角度で協議が進められた。

